

研 究

初めて出産を迎える妊娠末期の妊婦とその夫における
夫婦の愛情と対児感情および母親役割行動との関連

鈴木 幸子, 島田三恵子

〔論文要旨〕

初めての出産を迎える妊娠末期の夫婦の愛情と、対児感情および母親役割行動との関連を明らかにするために、初妊婦とその夫173組を対象とし調査を実施した。結果、妊婦の夫への愛情と妊婦の児への接近感情とに正の相関、母親役割行動とに正の相関、夫の妻への愛情とに正の相関が見られた。妊婦の夫への愛情高値群と低値群の比較では、高値群で妊婦の児への接近感情および母親役割行動が有意に高く、妊婦の児への回避感情、相反する葛藤の感情が有意に低かった。夫婦の愛情が夫婦とも高値群は夫婦とも低値群よりも妊婦の児への接近感情および母親役割行動が有意に高かった。よって、妊婦の夫への愛情が高いと児への接近感情が高く、母親役割行動をとりやすく、そして夫の妻への愛情も高いことがうかがえた。また、お互いの愛情が高い夫婦はお互い愛情が低い夫婦に比べて妊婦の児への接近感情が高く、母親役割行動をとりやすいことが示唆された。

Key words : 初妊婦, 妊娠末期, 夫婦の愛情, 対児感情, 母親役割行動

I. 緒 言

近年、妊娠先行結婚の増加¹⁾など結婚形態の多様化や、離婚率の上昇に伴うひとり親世帯の増加²⁾など家族構成や家族関係が多様化し、そして複雑化している。また、親による子どもの虐待やネグレクトが潜在的な社会問題となっている。夫婦が第一子の妊娠、出産、子育ての中で経験する夫婦関係の変化について、妊娠期では家族計画や妊娠判明時の気持ちに夫婦の差が見られないことや³⁾、妊娠後の夫婦関係の変化に対し夫よりも妻の方が肯定的に捉える傾向があること、夫婦の親密度は親になると低下することが報告されている^{4,5)}。夫婦関係はさまざまなライフステージに伴って変化し、特に、初めての出産や子育て

期を迎えようとする妊娠期は、親になるための準備期であり、夫婦の愛情、親密度は胎児や家族に対する思いや自身への役割意識にも影響すると考えられる。その妊娠期に着目することは、出産、育児期につながる妊娠期からのケアを検討するためにも意義があると考ええる。

そこで、初めて出産を迎える妊婦とその夫における妊娠期の夫婦の愛情に焦点を当て、対児感情および母親役割行動との関連を明らかにすることを目的とし本研究を行った。

II. 用語の定義

1. 「夫婦の愛情」とは、夫婦間の愛情、親密性と定義した。これは、菅原^{6,7)}により定義された夫婦の

The Impact of Pregnant Women's Marital Relations on Feelings toward Their Baby and Their Maternal Behavior at the Third Trimester of Pregnancy

Sachiko SUZUKI, Mieko SHIMADA

大阪大学大学院医学系研究科 (助産師 / 研究職)

別刷請求先: 鈴木幸子 〒464-0858 愛知県名古屋市千種区千種2-15-5-307

Tel : 080-6308-2609 Fax : 052-734-0380

[2425]

受付 12. 4.16

採用 13. 2.27

親密度と同義とした。夫婦間の心理社会的側面における関係性は、新しい家族を形成していくうえで重要であると考えたため、夫婦関係の中でも特に、妻、夫それぞれのお互いへの感情である、愛情と親密度を測定した。

2. 「対児感情」とは、児に対し抱く感情であり、花沢⁸⁾による定義と同義とした。愛着的で児を肯定し受容する方向の感情を接近感情とし、嫌悪的な児を否定する方向の感情を回避感情とした。接近感情と回避感情との相反する葛藤の感情を拮抗感情とした。

3. 「母親役割行動」とは、本研究では母親役割意識と行動の両面を含めて母親役割行動とした。母親役割を獲得するということは、気持ちのみでなく実際に行動が伴っていることが重要であると考え、母親の意識や行動面を含め、児を産み育てる役割、健全な母子関係を形成するための母親の意識の高まりや母親として遂行することが望ましい行動を母親役割行動とした。

Ⅲ. 研究方法

1. 対象

総合病院の産科外来を受診している初妊婦295名に調査票を配布した。児への愛着や母親としての意識が高まる^{9,10)}とされる妊娠末期の妊婦を対象とした。そのうち研究に同意が得られ、夫婦で調査票が回収された173組（有効回収率58.6%）を対象とした。

2. 方法

1) 調査施設

総合病院 1 施設。

2) 調査方法

上記の施設の産科外来を受診している初妊婦に対し、研究の概要を説明し、協力を依頼した。そのうち研究参加の意思を示した妊婦に対して調査票を配布した。夫への調査協力依頼文書と調査票については、妊婦が持ち帰り、自宅で夫に任意回答してもらった。回収は、留置き法と郵送法のどちらかを対象者が選択した。

3) 調査内容

妊婦の調査項目は属性および背景、夫婦の愛情、対児感情、母親役割行動項目とした。夫の調査項目は夫婦の愛情、対児感情項目とした。

①夫婦の愛情

菅原の Marital Love Scale^{6,7)} を使用した。Marital

Love Scale は、夫婦間の愛情と親密性の評価として作成されており、妻と夫の両方からの測定が可能であるため用いることとした。内容は10項目からなり、先行研究により尺度の信頼性および妥当性が高いことが確認されている^{6,7)}。本研究対象者（初妊婦、夫）での Cronbach の α 係数はそれぞれ0.888, 0.832であった。評定は1「全くあてはまらない」～7「非常によくあてはまる」の7段階である。合計得点は10点から最高70点で、得点が高いほど妻は夫への、夫は妻への愛情が高いことを表す。

②対児感情

妊婦およびその夫に、花沢が開発した対児感情評定尺度⁸⁾を用いた。これは28項目からなり、「非常にとおり」を3点、「そのとおり」を2点、「少しそのとおり」を1点、「そんなことはない」を0点とし採点する。接近感情14項目の合計得点から接近得点を、回避感情14項目の合計得点から回避得点を求め、また、回避得点を接近得点で除した拮抗指数を求めた。接近得点と回避得点とが、個人のうちでどのように拮抗しているかを表す指標として拮抗指数を用いた。得点が高いほど児への愛着的な感情である接近感情、児への嫌悪的な感情である回避感情、アンビバレントな感情である拮抗感情がそれぞれ強いことを示す。この尺度は先行研究から信頼性および妥当性が高いことが確認されている⁸⁾。本研究対象者（初妊婦、夫）での Cronbach の α 係数は、接近得点でそれぞれ0.831, 0.850, 回避得点で0.730, 0.764であった。

③母親役割行動

母親役割行動項目については、先行研究^{10~15)}を参考に独自に作成した。母親役割行動は、母親としての役割を担っていくうえで、母親の心理面や意識と同時に母親として実際に行動するという行為が重要であると考え、精神的側面と行動的側面の2側面で項目を作成した。項目は「親になる実感がある」、「子どもの世話をすることが楽しみ」など19項目とし、「非常によくあてはまる」6点～「全くあてはまらない」1点の6段階とした。逆転項目については「非常によくあてはまる」1点、「全くあてはまらない」6点と点数を逆にして計算し、「嗜好品」の項目は嗜好品なしの場合7点とした。得点が高いほど母親としての役割行動がとれていることを表す。調査項目は先行研究を参考にして作成し、内容妥当性を高めるために母子保健の専門家である大学院指導教官および助産実務経験5年以

上の大学院生5名で検討して修正を重ね、予備調査を経て作成した。本研究の対象者における Cronbach の α 係数は0.749であった。

4) 分析方法

分析は、社会統計ソフト SPSS18.0J for Windows を用いて行った。Marital Love Scale 得点と対児感情得点、母親役割行動得点には Spearman 順位相関係数を、Marital Love Scale 得点の平均値から2群に分けた高値群と低値群との比較には Mann-Whitney の U 検定を行った。さらに、Marital Love Scale 得点について、妊婦とその夫それぞれの得点の平均値から2群に分け、その組み合わせにより4群に分類し、Kruskal-Wallis の順位と検定を行った。

5) 倫理的配慮

調査の際には、調査者の氏名・連絡先・研究の趣旨および匿名性を確保する旨等を表記した協力依頼文書を用いて説明し、参加の意思を示した妊婦とその夫に対し調査票を配布した。回収は留置き法または郵送法とし、調査票の返信をもって同意とみなした。なお、本研究は大阪大学大学院医学系研究科倫理委員会および対象施設とした総合病院の倫理委員会の承認を得て実施した。

IV. 結 果

1. 対象妊婦の属性 (表1)

対象妊婦の年齢は30.1±4.7歳、夫の年齢は31.3±4.9歳であった。対象妊婦の就業状況、学歴、夫の仕事、家族形態、妊婦の主な援助者については表1のとおりである。

2. 夫婦の愛情、対児感情、母親役割行動得点 (表2)

Marital Love Scale 得点は、妊婦54.6±9.1点、夫では57.3±7.3点であった。対象者の対児感情、母親役割行動得点については表2に示す。

3. 妊婦の Marital Love Scale 得点と対児感情、母親役割行動との関連 (表3)

妊婦の対児感情接近得点との間に弱い正の相関 ($r = 0.299$, $p < 0.01$)、母親役割行動合計得点との間に中等度の正の相関 ($r = 0.428$, $p < 0.01$)、夫の Marital Love Scale 得点との間に弱い正の相関 ($r = 0.349$, $p < 0.01$) が見られた。

表1 妊婦の属性、背景 (n=173)

年齢	30.1 ± 4.7歳 [19~42]	
就業状況		
仕事あり	70	(41.9%)
仕事なし	97	(58.1%)
合計	167	(100.0%)
学歴		
中学卒業・高校中退	6	(3.5%)
高校卒業以上	166	(96.5%)
合計	172	(100.0%)
夫の年齢	31.3 ± 4.9歳 [21~46]	
夫の就業状況		
定職	157	(91.3%)
定職でない	15	(8.7%)
合計	172	(100.0%)
夫の学歴		
中学卒業・高校中退	12	(7.1%)
高校卒業以上	157	(92.9%)
合計	169	(100.0%)
妊娠週数	31.8 ± 3.3週 [28~40]	
妊婦健診回数	9.1 ± 2.9回 [4~17]	
家族形態		
核家族	160	(93.6%)
拡大家族	11	(6.4%)
合計	171	(100.0%)
援助者		
夫	114	(67.4%)
実母	47	(27.8%)
義母	4	(2.4%)
兄弟・姉妹	2	(1.2%)
友人	1	(0.6%)
その他	1	(0.6%)
合計	169	(100.0%)

[]内は range

4. 妊婦の Marital Love Scale 得点高値群と低値群の比較 (表4)

Marital Love Scale 得点は正規分布に近いことが確認されたため、先行研究⁷⁾と同様に平均値を用いることとした。本研究で得られた妊婦の Marital Love Scale 得点の平均値54.6点を基準にして、それよりも高い得点の者を高値群、低い得点の者を低値群とし、2群における妊婦の対児感情、母親役割行動得点、夫の対児感情、夫の Marital Love Scale 得点を比較した。妊婦の Marital Love Scale 得点高値群は低値群に比べて妊婦の対児感情接近得点、母親役割行動合計得点、夫の Marital Love Scale 得点が有意に高かった (p

表2 妊婦とその夫における夫婦の愛情、
対児感情、母親役割行動得点

(n=173)

妊婦の得点			
【夫婦の愛情】			
Marital Love Scale 得点	54.6	±	9.1
【対児感情】			
接近得点	29.0	±	6.7
回避得点	8.0	±	4.9
拮抗指数	28.2	±	18.7
【母親役割行動】			
親になる実感がある	4.5	±	0.9
親になる責任がある	5.1	±	0.9
親になることが精神的に負担でない*	4.1	±	1.3
妊娠出産が経済的に負担でない*	3.8	±	1.4
子育てが経済的に負担でない*	3.7	±	1.4
子どもの世話が楽しみ	5.0	±	0.9
子どものことを考えると嬉しい	5.6	±	0.7
したいことが制限されストレスでない*	4.0	±	1.4
夫との生活変わり残念でない*	4.5	±	1.4
嗜好品を控えている	5.1	±	1.6
食事を工夫している	4.3	±	1.2
規則正しい生活をしている	4.1	±	1.3
兄に話しかけている	4.3	±	1.2
兄のために何かいいことをしている	4.0	±	1.2
用品の準備・計画している	4.8	±	1.1
出産や育児の話を聞く・情報集める	5.1	±	0.8
母親学級へ積極的に参加する	4.2	±	1.3
育児の方針等を夫婦でよく相談する	4.0	±	1.2
夫以外の他者とよく相談する	4.0	±	1.3
母親役割行動合計得点	83.9	±	9.6
夫の得点			
【夫婦の愛情】			
Marital Love Scale 得点	57.3	±	7.3
【対児感情】			
接近得点	27.5	±	7.0
回避得点	7.9	±	5.1
拮抗指数	29.4	±	21.4

*は逆転項目

表3 妊婦の Marital Love Scale 得点と対児感情得点、
母親役割行動合計得点、夫の Marital Love Scale 得
点との相関

	相関係数	有意差
対児感情接近得点	r = 0.299	**
対児感情回避得点	r = -0.102	n.s.
対児感情拮抗指数	r = -0.156	*
母親役割行動合計得点	r = 0.428	**
夫の対児感情接近得点	r = 0.128	n.s.
夫の対児感情回避得点	r = -0.127	n.s.
夫の対児感情拮抗指数	r = -0.159	*
夫の Marital Love Scale 得点	r = 0.349	**

** : p <0.01, * : p<0.05 n.s. : not significant

<0.01)。母親役割項目の中の、「親になることが精神的に負担でない」、「子どもの世話が楽しみ」、「食事を工夫している」、「兄に話しかけている」、「日頃から出産や育児の話を聞いたり情報収集をしたりしている」、「育児の方針等を夫婦でよく相談している」(p <0.01), 「親になる実感がある」、「親になる責任がある」、「子育てが経済的に負担でない」、「したいことが制限されストレスでない」、「兄のために何かいいことをしている」(p <0.05) の項目において、低値群に比べて有意に高かった。

5. Marital Love Scale 得点パターンによる比較 (表5)

1組の夫婦としての関係性における対児感情および母親役割行動を検討するため、本研究で得られた妊婦の Marital Love Scale 得点の平均値54.6点および夫の Marital Love Scale 得点の平均値57.3点をそれぞれ基準にして、それよりも高い得点の者を高値群、低い得点の者を低値群とし、妊婦とその夫の夫婦の Marital Love Scale 得点の組み合わせにより、相思相愛群（夫婦ともに高値）、妊婦片思い群（妊婦が高値で夫が低値）、夫片思い群（妊婦が低値で夫が高値）、愛情希薄群（夫婦ともに低値）の4群に分類し分析した。この夫婦の Marital Love Scale 得点4パターンにおける分析で、妊婦の対児感情接近得点 (p <0.05), 回避得点 (p <0.05), 拮抗指数 (p <0.01), 母親役割行動得点 (p <0.01), 夫の対児感情接近得点 (p <0.01), 拮抗指数 (p <0.05) それぞれにおいて有意差が見られた。夫婦の Marital Love Scale 得点4パターンそれぞれの群ごとの妊婦の対児感情、母親役割行動、夫の対児感情との比較結果については表5のとおりである。

V. 考 察

1. 対象の属性

平成22年度出生に関する統計による報告¹⁾では第一子出産時の平均年齢は29.2歳であり、本研究では対象初妊婦の年齢が30.1±4.7歳であり、全国平均よりもやや高かった。家族形態について、全国の調査結果¹⁶⁾と比較して核家族が多く占めていた。調査地域が都市部であったため、対象妊婦の年齢はやや高く、親との同居率は低い傾向にあることが推察される。妊婦の主な援助者について、夫と実母で9割を占め、援助者がいないと答えた人はいなかったことから、妊婦には望ましい身近な援助者がいることがうかがえる。

表4 妊婦の Marital Love Scale 得点高値群と低値群における対児感情得点, 母親役割行動得点, 夫の Marital Love Scale 得点との関連

	愛情低値群 (n=94)			愛情高値群 (n=79)			合計 (n=173)			有意差
【対児感情】										
接近得点	27.2	±	6.9	30.4	±	6.1	29.0	±	6.7	**
回避得点	9.1	±	5.5	7.1	±	4.0	8.0	±	4.9	*
拮抗指数	32.1	±	20.6	25.0	±	16.5	28.2	±	18.7	**
【母親役割行動】										
親になる実感がある	4.4	±	0.8	4.6	±	1.0	4.5	±	0.9	*
親になる責任がある	5.0	±	0.9	5.2	±	0.9	5.1	±	0.9	*
親になることが精神的に負担でない*	3.8	±	1.2	4.4	±	1.2	4.1	±	1.3	**
妊娠出産が経済的に負担でない*	3.6	±	1.4	4.0	±	1.4	3.8	±	1.4	n.s.
子育てが経済的に負担でない*	3.4	±	1.2	3.9	±	1.4	3.7	±	1.4	*
子どもの世話が楽しみ	4.6	±	1.0	5.2	±	0.8	5.0	±	0.9	**
子どものことを考えると嬉しい	5.5	±	0.7	5.7	±	0.7	5.6	±	0.7	n.s.
したいことが制限されストレスでない*	3.7	±	1.3	4.2	±	1.4	4.0	±	1.4	*
夫との生活変わり残念でない*	4.4	±	1.3	4.6	±	1.4	4.5	±	1.4	n.s.
嗜好品を控えている	5.1	±	1.6	5.1	±	1.6	5.1	±	1.6	n.s.
食事を工夫している	4.0	±	1.2	4.5	±	1.1	4.3	±	1.2	**
規則正しい生活をしている	4.0	±	1.2	4.1	±	1.3	4.1	±	1.3	n.s.
児に話しかけている	4.0	±	1.2	4.6	±	1.1	4.3	±	1.2	**
児のために何かいいことをしている	3.8	±	1.1	4.2	±	1.2	4.0	±	1.2	*
出産や育児のための準備をしている	4.6	±	1.1	4.9	±	1.2	4.8	±	1.1	n.s.
出産や育児の話を聞いたり情報を集めたりする	4.9	±	0.7	5.2	±	0.8	5.1	±	0.8	**
母親学級へ積極的に参加する	4.1	±	1.2	4.2	±	1.4	4.2	±	1.3	n.s.
育児の方針等を夫婦でよく相談する	3.6	±	1.1	4.4	±	1.1	4.0	±	1.2	**
夫以外の他者とよく相談する	3.9	±	1.2	4.1	±	1.3	4.0	±	1.3	n.s.
母親役割行動合計得点	80.0	±	8.0	87.1	±	9.7	83.9	±	9.6	**
【夫の対児感情】										
接近得点	27.1	±	7.0	27.8	±	7.1	27.5	±	7.0	n.s.
回避得点	8.4	±	4.9	7.4	±	5.2	7.9	±	5.1	n.s.
拮抗指数	30.6	±	22.8	28.5	±	20.4	29.4	±	21.4	n.s.
【夫の夫婦の愛情】										
夫の Marital Love Scale 得点	54.6	±	7.3	59.0	±	6.7	57.3	±	7.3	**

妊婦の Marital Love Scale 得点高値群と低値群との比較 ** : p<0.01 * : p<0.05 n.s. : not significant

Mann-whitney の U の検定

*は逆転項目

表5 夫婦の Marital Love Scale 得点4パターンと対児感情, 母親役割行動との関連

	妊婦の対児感情 接近得点			妊婦の対児感情 回避得点			妊婦の対児感情 拮抗指数			母親役割 行動得点		
相思相愛群 (63組)	30.3	±	6.0	7.6	±	4.0	26.1	±	147.3	86.1	±	10.0
妊婦片思い群 (30組)	30.3	±	6.7	6.4	±	4.1	23.4	±	198.3	88.7	±	8.9
夫片思い群 (30組)	28.2	±	7.3	9.9	±	5.1	35.4	±	173.9	80.6	±	7.9
愛情希薄群 (46組)	26.7	±	6.5	8.9	±	5.8	30.7	±	226.5	79.7	±	7.9

	夫の対児感情 接近得点			夫の対児感情 回避得点			夫の対児感情 拮抗指数		
相思相愛群 (63組)	29.9	±	5.7	7.1	±	5.3	24.1	±	160.1
妊婦片思い群 (30組)	23.7	±	7.8	8.0	±	5.1	36.6	±	252.3
夫片思い群 (30組)	30.1	±	5.2	7.3	±	5.2	24.8	±	171.7
愛情希薄群 (46組)	25.4	±	7.2	9.3	±	4.6	34.7	±	254.0

夫婦の Marital Love Scale 得点4パターンにおける Kruskal-Wallis の順位和検定 ** : p<0.01, * : p<0.05

2. 妊婦の夫への愛情と対児感情

妊婦の Marital Love Scale 得点と対児感情について、Marital Love Scale 得点と対児感情接近得点とに弱い正の相関が見られ、Marital Love Scale 得点高値群は低値群に比べて接近得点が有意に高かったことから、妊婦の夫への愛情が高いほど妊婦の児への愛着的感情は高まりやすくなることが示唆される。また、Marital Love Scale 得点高値群の方が対児感情回避得点および拮抗指数ともに低値群に比べて有意に低かったことは、妊婦の夫への愛情が高い方が児に対する否定的な感情や相反する葛藤の感情が少ない傾向にあることが推察される。夫婦関係の良好さが親の子どもへの感情に関連していることが先行研究で報告されており^{12,19,20)}、本研究でも、妊婦の夫への愛情と児への感情に関連していることが明らかになった。

3. 妊婦の夫への愛情と母親役割行動

妊婦の Marital Love Scale 得点と母親役割行動について、Marital Love Scale 得点と母親役割行動得点とに中等度の正の相関が見られ、Marital Love Scale 得点高値群は低値群に比べて母親役割行動得点が有意に高かったことから、夫への愛情が高いほど母親役割行動得点も高くなり、母親としての役割行動をとりやすくなることが示された。佐々木は、妻では良好な夫婦関係が親となる意識の否定的側面を緩和し、親となる意識に肯定的に寄与していたことを明らかにしている¹⁴⁾。本研究でも同様な結果が得られ、特に、妊婦の夫への愛情が高いと親としての実感や責任が湧き、精神的に親になることを受け入れやすく、児への積極的な関わりを持ち、児のために母親として工夫したり気にかけてりする行動が見られ、出産や育児に向けての前向きな姿勢をとりやすいことが示唆される。また、出産や育児に向けて夫や周りの人達と相談したり情報を得たり、準備したりする行動をより多くとっていた。これらのことは、特に妊婦の夫への愛情が良好なことによって高められるであろう母親役割行動の具体的な意識や行動として本研究で初めて明らかにされた。

4. 夫婦の愛情と対児感情、母親役割行動

Marital Love Scale 得点4パターンの分類による分析結果から、相思相愛群および妊婦片思い群の方が愛情希薄群に比べて妊婦の児への愛着的感情は高く、児への否定的感情や相反する葛藤の感情は低いことが明

らかになった。また、母親役割行動得点についても、相思相愛群および妊婦片思い群は夫片思い群および愛情希薄群に比べてそれぞれ有意に高かった。これらのことから、夫婦関係の良好さや妊婦の夫への愛情が強いことによって、児への愛着的感情やよりよい母親役割行動が促され、児への相反する葛藤の感情が抑えられることが示された。本研究で、妊娠期における妊婦とその夫双方の関係性における児への愛着および母親役割行動について、妊婦の夫への愛情は妊婦の対児感情および母親役割行動に、夫の愛情は夫の対児感情にそれぞれ関連していることが明らかにされ、特に、夫婦とも愛情が強いと児への愛着や母親役割行動により影響を与えることが示された。

Cowan は、児の誕生によって結婚の満足度は夫婦ともに低下し結婚の質は親になると悪化すると指摘しており¹⁹⁾、日本の調査でも夫婦になると親密性は低下すると報告されている^{4,5)}。また、育児期の夫婦関係が児への愛着や母親役割行動に関連していることが明らかになっている²⁰⁾。数井らは、子どもへの愛着の安定性には、夫婦関係の調和性と親役割からのストレスとが関連しており、母親の心理状態や子どもへの行動・態度は、夫との関係のありようと密接に関連しているという結果を出している²¹⁾。

これらのことから、育児の準備期である妊娠期から、出産・育児に向けて夫婦関係を構築していく必要がある。妊娠期では、夫婦2人の間に胎児が存在し、夫婦の心理社会的結びつきを強める貴重な機会ともなるため、胎児を介して夫婦関係が維持向上できるような関わりが有効であると考えられる。例えば、両親学級等で妊婦と夫が妊婦の腹部に触れ、胎児を感じられる機会を設けたり、出産や育児に向けた物品を夫婦で一緒に準備することや、子どものいる生活をイメージして夫婦で話し合うことなど、生まれてくる子どもである胎児を、夫婦で感じながら過ごしたり話し合ったりする時間を大切にしてもらうように夫婦へ声かけすることは、夫婦関係を良好に保つように働きかける方法の1つではないかと考える。また、本研究でも明らかになったように、夫婦の愛情や親密度は夫婦双方に影響し合っているため、夫婦がお互いに相手への愛情を維持向上させ良好な関係を保てるように、夫婦間のコミュニケーションを密にとることを夫婦双方へ働きかけていくことが大切である。そして、夫婦の関係が良好であれば、自然と夫婦で相談したり母親や父親にな

ることを考えたり子どものために前向きになったりすることにもつながるのではないかと考えられる。そのため、家族が増える前から夫婦で十分な時間をとり、お互いの意志や状況を把握したり配慮したりすることで、新しい家族を迎える準備や母親や父親になる準備を促進できるように働きかけることが重要である。

さらに、本研究では、夫の対児感情について、相思相愛群および夫片思い群では、夫の児に対する接近感情が妊婦片思い群および愛情希薄群よりも高くなり、拮抗指数も同様に低くなったことから、夫婦関係の良好さが父親の児への感情にも影響することが示唆される。先行研究では妊婦の夫の親性を発達させる要因に夫婦関係が関与していることや夫の親役割の適応の際に夫婦関係が影響を及ぼすことが明らかになっている^{22,23)}。また、夫婦関係を良好に保つことが父親の親としての精神的負担や家事育児の負担感を軽減するとの報告もある²⁴⁾。これらのことから、父親役割遂行や父親の児への愛着の高まりを促すためにも、妊娠中からの父親への働きかけも大変重要であり、夫婦間の愛情を高めるための関わりと同時に、父親への労りや父親が育児に参加しやすい状況作りにも積極的に取り組む必要があると考えられる。

5. 研究の限界

本研究は1地域1施設での調査であったため、今後、複数の地域や施設での調査が望ましい。

VI. 結 論

妊婦の Marital Love Scale 得点と対児感情接近得点には弱い正の相関、母親役割行動得点には中等度の正の相関があった。Marital Love Scale 得点が高い妊婦は児への接近感情や母親役割行動の得点が高く、夫の Marital Love Scale 得点も高かった。相思相愛群は愛情希薄群よりも妊婦の対児感情接近得点、母親役割行動得点が高かった。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、貴重なお時間を割いて調査にご協力いただきましたお母様、お父様に深く感謝申し上げます。また調査の際にご高配いただきました施設スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。

なお、本研究は大阪大学大学院医学系研究科博士前期

課程修士論文の一部である。

文 献

- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部. 出生に関する統計. 平成22年度 人口動態統計特殊報告. 2011.
- 2) 厚生労働省. 平成18年度全国母子世帯等調査結果報告. (2012.4.2) <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-setai06/index.html>
- 3) 倉持清美, 中澤智恵, 田村 毅, 他. 妊娠期の夫婦の特徴—第一次質問紙調査とインタビュー調査から—, 東京学芸大学紀要6部門 2001; 53: 73-81.
- 4) 小野寺敦子. 親になることにともなう夫婦関係の変化. 発達心理学研究 2005; 16 (1): 15-25.
- 5) 中澤智恵, 倉持清美, 田村 毅, 他. 出産・子育て体験が親の成長と夫婦関係に与える影響 (4) —第一子出生後の夫婦関係の変化と子育て—, 東京学芸大学紀要6部門 2003; 55: 111-122.
- 6) 菅原ますみ. 夫婦間の親密性の評価—自記入式夫婦関係尺度について—, 精神科診断学 1997; 8 (2): 155-166.
- 7) 菅原ますみ, 八木下暁子, 詫摩紀子, 他. 夫婦関係と児童期の子どもの抑うつ傾向との関連—家族機能および両親の養育態度を媒介として—, 教育心理学研究 2002; 50 (2): 129-140.
- 8) 花沢成一. 母性心理学. 第1版. 東京: 医学書院, 1992.
- 9) 佐藤里織. 初妊婦における胎児に対する attachment (きずな) が新生児に対する attachment に及ぼす影響—妊娠初期から出産後1ヵ月までの縦断的研究—, 日本看護科学会誌 2004; 24 (3): 72-80.
- 10) 三澤寿美, 小松良子, 片桐千鶴, 他. 初産婦の母親役割行動に関する研究—Reva Rubinの妊婦の母親役割獲得過程における概念を用いて—, 山形保健医療研究 2004; 7: 23-31.
- 11) 大日向雅美. 母性の研究—その形成と変容の過程. 伝統的母性観への反証. 第1版. 東京: 川島書店, 1988.
- 12) 大塚一郎. 妊産婦の不安と母性意識. 助産婦雑誌 1987; 41 (6): 529-535.
- 13) 常盤洋子. 出産体験の自己評価と産褥早期の産後うつ傾向の関連. 日本助産学会誌 2003; 17 (2): 27-38.
- 14) 佐々木くみ子, 植田 彩, 鈴木康江, 他. 親となる

意識の構造とその影響要因に関する調査研究. 米子医学雑誌 2004 ; 55 : 142-150.

- 15) 三澤寿美, 片桐千鶴, 小松良子, 他. 母性発達課題に関する研究 (第2報) —妊娠期にあるはじめて子どもをもつ女性の気持ちに影響を及ぼす要因—. 山形保健医療研究 2004 ; 7 : 9-21.
- 16) 厚生労働省. 平成22年国民生活基礎調査の概況. (2012.4.2) <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/>
- 17) Hisata M, Miguchi M, Senda S, et al. Childcare Stress and Postpartum Depression — An Examination of the Stress-buffering Effect of Marital Intimacy as Social Support . Research in social psychology 1990 ; 6 (1) : 42-51.
- 18) 岡山久代. 妊婦の胎児への愛着に対する実母ならびに夫との関係の影響—パス解析による因果モデルの検討—. 日本看護研究学会雑誌 2002 ; 25 (5) : 15-25.
- 19) 山田昌弘, 開内文乃, 訳 (Cowan CP, Cowan PA, 著). カップルが親になるとき. 第1版. 東京:勁草書, 2007.
- 20) 盛山幸子, 島田三恵子. 産後の夫婦関係及び出産満足度と対児感情及び母親役割行動との関連. 家族看護研究 2011 ; 17 (1) : 13-19.
- 21) 数井みゆき, 無藤 隆, 園田菜摘. 子どもの発達と母子関係・夫婦関係 幼児をもつ家族について. 発達心理学研究 1996 ; 7 (1) : 31-40.
- 22) 古田祐子, 生塩麻衣, 池尻真紀, 他. 妊娠期の妻の働きかけによる夫の親性発達. 母性衛生 1999 ; 40 (4) : 482-490.
- 23) 神崎光子. 妊娠後期における夫の親役割への適応に関する研究 (第1報) —親としての態度・行動変化と親意識, 妻との関係性, 子どもへの感情および自我状態との関連—. 母性衛生 2005 ; 45 (4) : 540-550.
- 24) 中島久美子, 常盤洋子. 妊娠初期の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識. 日本助産学会誌 2011 ; 25 (1) : 45-56.

[Summary]

Purpose : This study describes the impact of pregnant women's marital relations on feelings toward their babies and their maternal behavior at the third trimester of

pregnancy.

Methods : Participants were 173 couples, including primigravid women at the third trimester of pregnancy and their husband. Questionnaires given to the women inquired about their background, marital relations, attitudes toward their babies, and maternal behavior. The husbands' questionnaires inquired about marital relations and attitudes toward their babies.

Results : The women's marital relations score showed a significant, moderate positive correlation with scores for positive feelings toward their babies ($r = 0.299$, $p < 0.01$), overall maternal behavior score ($r = 0.428$, $p < 0.01$), and marital relations score of their husbands ($r = 0.349$, $p < 0.01$). The women with high marital relations scores had higher scores for positive feelings toward their babies and higher overall maternal behavior scores than the women with low marital relations scores ($p < 0.01$). In addition, the high score group showed significantly lower scores for negative feelings toward their babies and antagonistic index of feelings toward the baby ($p < 0.05$). We then divided subjects into four groups based on the marital relations score of both the woman and the husband. Those couples in which both the woman and the husband had high marital relations scores had higher scores for positive feelings toward their baby and higher overall maternal behavior scores than couples in which both the woman and the husband had low marital relations scores ($p < 0.05$, $p < 0.01$).

Conclusion : At the third trimester of pregnancy, marital relations scores of pregnant women were significantly and positively correlated with scores for positive feelings toward their babies and overall maternal behavior score. Higher marital relations scores of pregnant women were correlated with higher positive feelings toward their babies, maternal behavior scores, and marital relations scores of their husbands.

[Key words]

primigravid woman, third trimester of pregnancy, marital relations, feelings toward the baby, maternal behavior